

管理 No.107 【TXT+TS-1 療法】

2015 年 1 月 4 日作成

疾患名：進行・再発胃癌 1クール：21日 総クール数：PD あるいはPS悪化まで

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
ドセタキセル	ドセタキセル「サンド」	40mg/m ²	Day1	
S-1	ティーエスワン	80mg/m ²	Day1-14	血液毒性(グレード3以上)、消化器症状(グレード2以上)

2. レジメン

投与日	ルート	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day1-14	内服(1日2回)		ティーエスワン	80mg/m ²	
Day1	点滴静注	30分	デカドロン(3.3mg/1mL)	2A	無水アルコール含有のため、 アルコール過敏の患者には不可。
			生食 50mL		
	点滴静注	60分	ドセタキセル「サンド」 (20mg/1mL) (80mg/4mL)	40mg/m ²	
			生食 250mL		

3. 初回・次クール投与基準

- (1) PS:0、1、2
- (2) 白血球数 $\geq 4000/\text{mm}^3$ 、好中球数 $\geq 2000/\text{mm}^3$ 、血小板 ≥ 10 万/ mm^3 、Hb $\geq 9.0\text{g/dl}$ 以上
AST、ALT $< 2 \times$ 正常値、クレアチニン $< 正常値 \times 1.5$ 、総ビリルビン ≤ 2.1
- (3) 主要臓器能が保たれている。浮腫がない。
- (4) 感染症又はその疑い(CRP異常、発熱、白血球異常増多)がない

4. 中止基準 (前クール投与後に下記のいずれかに該当した場合は中止する)

- (1) 上記項目を満たさない時

5. 投与時の注意点

- (1) 添付の溶解液にはエタノールが含まれているのでアルコール過敏の有無に対する問診を実施すること
- (2) 一般にドセタキセルの総投与量が350~400mg/m²を超えると浮腫の発現頻度が上昇するがステロイド剤の使用により体液貯留・浮腫の出現時期を遅らせることが可能である。予防策として投与前日からデキサメタゾン 16mg/日の3日間投与すると、浮腫の発現時期を遅らせることが可能である
- (3) 血管外漏出に注意すること (ドセタキセルは少量の漏出でも水疱性皮膚壊死を生じやすいため注意)
- (4) 肝機能が低下している場合は毒性が増強されるおそれがあるため注意する
- (5) タキサン製剤の取り違えに注意する